

茨城県国際理解教育推進協議会

会長 川俣 勝慶 殿

## ワールドキャラバン国際理解教育実施報告書

学校名 城里町立常北中学校

担当教諭名 井川 勝広

「ワールドキャラバン」国際理解教育については、下記のとおり実施しましたので報告します。

### 記

実施日時	平成23年10月11日(火) 10:40～ 12:30
対象学年と人数	第2年生 105名
派遣講師名と出身国	新垣 マリア(ペルー)
活動の内容	・ペルーの様子について(スライドで紹介) ・ペルーの言葉(ありがとう, こんにちは, さようなら...) ・ペルーのゲーム(ジャンケン、ヤス) ・民族音楽 ・民族舞踊 ・ペルーの民族衣装 ・民芸品 ・食文化(ゼリー, 飲み物)
今回実施されたワールドキャラバンについて評価	国際交流をすることで自分たちの視野が広まり、日本の文化を見直すきっかけとなった。今回のワールドキャラバンのおかげで外国についての興味関心も高まったと思う。
生徒・保護者等参加者の感想	・ペルーの服や帽子がかわいらしくておもしろかった。・アルパカの写真が印象的だった。・ペルーのゼリーや飲み物がとても甘くてびっくりした。・マチュピチュの遺跡が日本の文化遺産と違ってたくさんの石を積み上げたものすごい。・ペルーの踊りを講師のマリアさんと一緒に踊って楽しかった。日本の踊りととても違っていたが、動きがおもしろくてすぐに覚えられた。音楽もリズムに乗りやすくていい感じだった。たくさんの準備をさせていただきペルーのことが身近に感じられました。・「コンドルは飛んでいく」という曲やナスカの地上絵は知っていましたが、それがペルーのものだったということを初めて知りました。
先生の感想	世界のさまざまな国や地域の文化にふれることは、改めて日本や地域の文化を見直すいい機会である。ペルーと日本はお互い地球の反対側に位置している。しかし、住んでる場所や言葉は違っても同じものに共感できる。例えば「コンドルは飛んでいく」という曲にはペルー人も日本人も同じような親しみや郷愁を感じるということが出来る。それ以外にも、民族衣装や民族舞踊、音楽などに、生徒たちが興味や関心を抱いたり親しみが持てたかどうか大きなポイントである。そこから、日本文化の良さを見い出したり、そのきっかけとしたい。



茨城県国際理解教育推進協議会  
会長 川俣 勝慶 殿

## ワールドキャラバン国際理解教育実施報告書

学校名 城里町立常北中学校

担当教諭名 若松 幸一

「ワールドキャラバン」国際理解教育については、下記のとおり実施しましたので報告します。  
記

実施日時	平成23年11月15日(火) 10:00～13:30
対象学年と人数	第1年生 138名
派遣講師名と出身国	韓 東(ハン・ドン)(中国)
活動の内容	・中国の様子について(クイズで紹介) ・中国の言葉・文化 ・中国と日本のつながり ・民族衣装 ・少数民族の説明 ・世界の生活を写真で見ることで「豊かさ」と「幸せ」を考える (写真を選び付箋に書き、グループで発表する)
今回実施されたワールドキャラバンについて評価	国際交流をすることで自分たちの視野が広まり、日本の文化を見直すきっかけとなった。今回のワールドキャラバンのおかげで外国についての興味関心も高まったと思う。また、日本と中国の歴史的な関係も理解を深めることができたと思う。学校行事の1つとしてとても有意義なものになったと思う。
生徒・保護者等参加者の感想	・O君の着た中国の服がかわいらしくておもしろかった。・世界の様々な国の写真が印象的だった。・中国の大きさが理解できた。・意外に中国が近くにあることがわかった。・中国の民族衣装を講師の韓さんに紹介してもらって様々な衣装があることがわかった。・中国には56の言葉があるなんてすごいと思った。・世界の家族の写真を見て、人類共通の大切なものを知ることができた。・たくさんの国の写真を見ることが出来て楽しかった。○×クイズが楽しかったし、賞状がもらえてよかった。
先生の感想	世界のさまざまな国や地域の文化にふれることは、改めて日本や地域の文化を見直すいい機会である。中国と日本はお互い関係しあいながら現在にいたっている。言葉は違っても漢字で今でも通じ合うものがあり共感できる。テレビにはない今の中国に生徒たちが興味や関心を抱いたと思う。そこから、日本文化の良さを見い出したり、そのきっかけとできると思う。世界の国々に視野を広げられる、とても良い時間であった。普段触れ合うことのできない外国の方と触れ合うことができたことは、これからの人生の中で大変良い経験になったと思う。

